

ジェンダー・ギャップ(男女平等)指数2022 ～日本の総合順位は146か国中116位

今年7月に世界経済フォーラム(WEF)が公表した「グローバル・ジェンダー・ギャップ報告書2022」で、日本は146か国中116位と先進国の中で最低レベルでした。これは、毎年、世界各国の「政治」「健康」「教育」「経済」4分野のデータから、男女格差の度合いを測る「ジェンダー・ギャップ指数」を算出し、順位付けしたものです。

日本の総合順位は昨年度の120位(156か国中)から若干上がったものの、対象国が減っている上、指数は0.656から0.650に低下しています。

分野別で見ると、「経済」は121位で、女性の管理職比率、労働参加率の低さ、収入での男女格差が目立ちました。「政治」は139位と深刻です。国会議員(衆院議員)と閣僚の女性割合がいずれも低く、女性首相が誕生していないことも低評価につながっています。「教育」は1位ですが、男女格差がある大学(高等教育)就学率が、今回の日本の評価には含まれていません。「健康」は63位。しかし、「性と生殖の健康と権利」に関する実態など、重要な項目がそもそも含まれていません。

WEFは、新型コロナウイルスの感染拡大によりジェンダー平等の達成が「一世代分遅れた」と指摘し、今の状況が続けば世界中でジェンダー平等が達成されるまで135年かかるとして各国に取組の加速を求めています。

日本のジェンダー・ギャップ指数(2022)の順位

分野	順位	指数	昨年度	
政治	139位	0.061	147位	0.061
経済	121位	0.564	117位	0.604
教育	1位	1.000	92位	0.983
健康	63位	0.973	65位	0.973
総合	116位 (146か国中)	0.650	120位 (156か国中)	0.656

*指数は「1」に近いほど男女格差が少なく、0が完全不平等、1が完全平等を示しています。

啓発パネルをご活用ください!

わたしたちは性犯罪・性暴力を許さない (A2判・13枚)

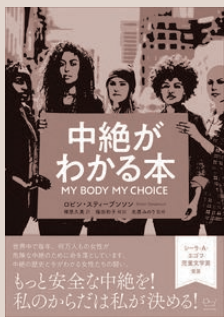
性犯罪・性暴力は、人としての尊厳や人権を傷つける重大な犯罪です。にもかかわらず、社会にある様々な誤解や偏見から被害者の落ち度が問われることがあり、被害者をさらに苦しめます。

パネルでは、誰もが被害者にも加害者にもならないために性暴力とは何かを知り、「性を傷つけることは、暴力であり犯罪である」という認識をしっかりと根付かせようと呼びかけています。



パネルは、県内市町村、女性関連施設及び男女共同参画社会の推進に向け活動している団体などを対象に、無料で貸し出しています。詳しくはWith You さいたまにお問い合わせください。

情報ライブラリーより



中絶がわかる本 MY BODY MY CHOICE

ロビン・スティーブソン 著：原久美 訳：福田和子 解説：北原みのり 監修(アジュマ2022年) 請求記号:498.2/チ

中絶はアメリカ・カナダなどの国では主に宗教的な観点から違法とされ、また日本でも社会的にタブー視されてきました。そのため、今でも世界各国の女性たちが「中絶できる権利」そして、「安全な中絶」を求めて闘っています。

この本では、これまで語られてこなかった中絶の歴史や現在の各国の状況を、当事者の証言を中心に、文章だけでなくカラー写真やイラスト・漫画を通じて説明されています。「MY BODY MY CHOICE(私の身体のこととは私が決める)」のために活動している若者たちの言葉からは、困難に立ち向かう勇気や強さを感じることが出来ます。

10代から大人まで誰にとってもわかりやすく、中絶の問題を通じてリプロダクティブ・ヘルス(RH)についても学べる一冊です。



生理CAMP みんなで聞く・知る・語る!

工藤里紗 監修：上田惣子 漫画(集英社2021年) 請求記号:495.13/セ

テレビプロデューサーの著者が、自身も深く悩んだことがある「生理」について、キャンプファイヤーを囲むようにおおらかに話し合う、そんな番組を制作しました。そして、本にしました。

この本では、タレントやアスリート、医療従事者など様々な人たちが、体験談を本音で語り合い「生理」という話題で繋がっています。ナプキン以外の生理用品の使い方や子どもの疑問への答え方などの役立つ知識を漫画やイラスト・図を多用して解説し、全体を通してわかりやすい構成となっています。

大人も子どもも、みんなで読んで、語り合い、「生理」への理解を深められる一冊です。

*上記の本は、With You さいたま 情報ライブラリーにて、貸出しをしています。

相談 コラム

ひとりで悩んでいませんか?

11月12日～11月25日は「女性に対する暴力をなくす運動」週間です。この機会に暴力について考えてみましょう。

暴力を振るわれて「お前が悪いから」と言われたことはありませんか? 暴力は被害者の責任でしょうか?

いいえ、どのような理由や経緯があったとしても、暴力を振るってははいけません。

理由や性別を問わず、暴力を振るうことを容認することはできません。暴力を受けてひとりで悩んでいませんか?

暴力を受けていることを誰かに話すのは、勇気のいることだと思いますが、こんな時は迷わず、With You さいたまにお電話ください。

電話相談
048-600-3800
相談時間
月～土 10:00～20:30
(祝日・第3木曜日・年末年始を除く)

男性のための電話相談
048-601-2175
相談時間
第1・第3日曜日 11:00～15:00
(1/1を除く)

イベントの日時や内容は変更になる場合がございますので、予めご了承ください。一部、講演会は動画配信も行います。詳しい内容はWith You さいたまホームページをご覧ください。

11月 13日
DV防止フォーラム2022
DVを繰り返す心理と加害者プログラムの実際
講師：森田展彰さん
(筑波大学医学医療系准教授・医学博士・精神科医)

2023年2月 3日(金)午後～5日(日)
第21回 With You さいたまフェスティバル
5日(日)
With You さいたまフェスティバル講演会
これからの男の子とおとなたちへ
講師：太田啓子さん(弁護士)

3月 11日(土)
女性リーダー育成講座
女性の声で地域を変えよう
成果報告会
1年間の講座の最終回にあたり、学びの成果を発表します。彼女たちの「声」を聞きにいらしてください。

通年
11/26(土)・12/22(木)
2023年
1/28(土)・2/22(水)・3/18(土)

生き方セミナー
13:15～14:45
不安を解消し、最適な生き方を選択できるように基本的な知識や情報を提供するセミナーです。月1回程度、土曜日または平日に開催します。

グループ相談会
15:00～16:30
同じ悩みを語り合い、知恵や経験を分かち合う交流の場です。月1回程度、土曜日または平日に開催します。
※日程やテーマなどの詳細はホームページをご確認ください。



DVお悩みチャット@埼玉

DVに関するお悩みについて、チャットで気軽にご相談ください!

受付日時 日曜・水曜・金曜(年末年始を除く) 15時～20時30分
対象者 DV被害を受けている方及びその親族、友人・知人など(県内に在住、通学及び在勤している方)

ウェブチャットによる相談
二次元コードを読み込み、サイトにアクセスしてください。

電話による相談も引き続きお受けしています
埼玉県婦人相談センター **048-863-6060**
月～土 9:30～20:30 日・祝 9:30～17:00(12/29～1/3除く)
埼玉県男女共同参画推進センター(With You さいたま) **048-600-3800**
月～土 10:00～20:30(祝日・第3木曜日・年末年始を除く)



にじいろ県民相談(埼玉県LGBTQ県民相談)

性的指向(好きになる性)や性自認(自分の性の認識)に関するお悩みについて、電話やLINEで相談ください!

受付日時 毎週土曜日(年末年始を除く) 18時～21時30分
対象者 性的指向・性自認に関する悩みがある方及びその親族、友人・知人など(埼玉県内に在住、通学及び在勤の方)

電話による相談
0570-022-282(ナビダイヤル)
LINEによる相談
二次元コードを読み込んでいただくか、LINEアプリのホーム画面で「埼玉県 にじいろ県民相談」を検索し登録してください。



休館日等のお知らせ
年末・年始の休館日 12月29日(火)～1月3日(火)
情報ライブラリーの臨時休館 12月12日(水)～12月18日(火)

保育サービスを実施しています 予約制
With You さいたま主催の講座への参加や面談などの際に、6か月から未就学のお子様(講座・イベントにより小学3年生まで)の保育サービスを実施しています。
▶保育料 お子様1名につき300円

With You さいたま
埼玉県男女共同参画推進センター
〒330-0081 さいたま市中央区新都心2-2
TEL **048-601-3111**
FAX **048-600-3802**
https://www.pref.saitama.lg.jp/withyou/

開館時間
月曜～土曜 / 9:30～21:00
日曜・祝日 / 9:30～17:30
休館日 / 第3木曜日、年末年始

貸出施設のご利用時間
午前 / 9:30～12:00
午後 / 13:00～17:00
夜間 / 18:00～21:00
※利用時間には、準備及び片づけの時間も含まれます。

With You さいたま相談
電話相談 TEL **048-600-3800**
相談時間 月曜～土曜 / 10:00～20:30
(祝日、第3木曜日、年末年始を除く)

埼玉県女性キャリアセンター
電話相談 TEL **048-601-1023**
相談時間 月曜～金曜 / 10:00～11:30
12:30～16:30
(祝日、第3木曜日、年末年始を除く)

面談相談予約 TEL **048-601-5810**
受付時間 月曜～土曜 / 9:30～17:30
(祝日、第3木曜日、年末年始を除く)

●ハローワーク求人情報の提供
求人情報の検索 月曜～土曜 / 9:30～17:30
求人情報の紹介 月曜～土曜 / 10:00～17:00



With You さいたま
ホテルプリランテ武蔵野3・4F
さいたま新都心駅から徒歩5分 北与野駅から徒歩6分

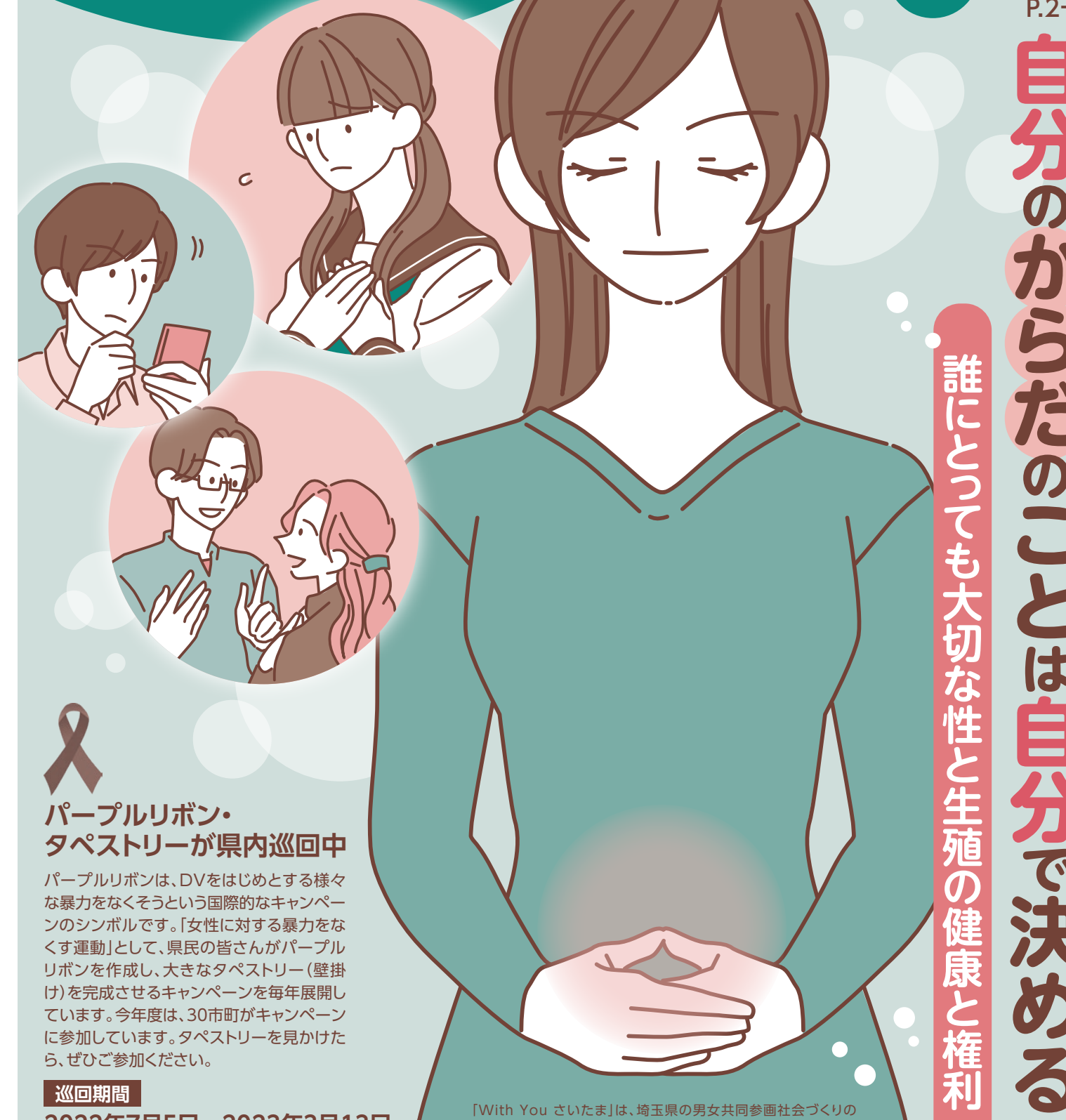
埼玉県マスコット
「コトバ」(さいたまっしゅ)

With You さいたま vol.69 2022年11月発行

埼玉県男女共同参画推進センター With You さいたま広報紙 vol.69

With You さいたま

11月号
2022
November



特集 Special Feature P.2-4

自分の中からだのことは自分で決める

誰にとっても大切な性と生殖の健康と権利

CONTENTS

- P5 コラム
「ジェンダー・ギャップ(男女平等)指数2022～日本の総合順位は146か国中116位」
- P6 啓発パネルをご活用ください!
「わたしたちは性犯罪・性暴力を許さない」
- P6 情報ライブラリーより
- P6 相談コラム「ひとりで悩んでいませんか?」
- P6 With You さいたま イベントカレンダー
- P6 「DVお悩みチャット@埼玉」「にじいろ県民相談(埼玉県LGBTQ県民相談)」のお知らせ

パープルリボン・タペストリーが県内巡回中

パープルリボンは、DVをはじめとする様々な暴力をなくそうという国際的なキャンペーンのシンボルです。「女性に対する暴力をなくす運動」として、県民の皆さんがパープルリボンを作成し、大きなタペストリー(壁掛け)を完成させるキャンペーンを毎年展開しています。今年度は、30市町がキャンペーンに参加しています。タペストリーを見かけたら、ぜひご参加ください。

巡回期間
2022年7月5日～2023年3月13日

「With You さいたま」は、埼玉県の男女共同参画社会づくりのための総合拠点施設です。

自分のからだのことは自分で決める

誰にとっても大切な性と生殖の健康と権利

SRHR(性と生殖の健康と権利)って何?

妊娠しているのではないかと心配です。どうしたらいいですか?



自分の性器は友達と比べて、変わっているのではないかと心配です。

避妊はどのような方法がありますか?

家庭でできる性教育サイト「命育」より「10代の性のお悩みQ&A」
<https://meiiku.com/>

「性」は私たちの「生」と切っても切れないものですが、親しい間柄でも語り合うことが難しい話題です。正しい性知識を持たないために傷ついたり、誰にも相談できず悩む方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

性別や年代を問わず、結婚や出産を望むか、するとしたらいつ頃が良いか、などについて考えるのはとても大切です。性を正しく学ぶのは、自分やパートナーを守り、自分の人生を健やかに生きることにもつながります。そして、性について考えるうえでは「性と生殖の健康と権利」が欠かせません。これは英語のSexual and Reproductive Health and Rights、頭文字をとって、「SRHR」と呼びます。「誰もが性について個人の意思が尊重され、身体的にも精神的にも社会的にも良好な状態で、自分の身体のことを自分で決められる権利」として、1990年代の国際社会で提唱されました。

SRHRとは?

セクシュアル・ヘルス Sexual Health

自分の「性」に関することについて、心身ともに満たされて幸せを感じられ、またその状態を社会的にも認められていること。

リプロダクティブ・ヘルス Reproductive Health

性や子どもを産むことに関わるすべてにおいて、身体的にも精神的にも社会的にも本人の意思が尊重され、自分らしく生きられること。

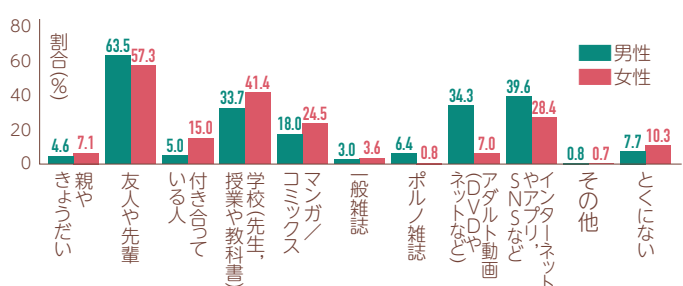
誰もが安心して頼れる性の情報とは

若者たちは性に関する情報をどこから得ているのでしょうか。このグラフ(図1)は高校生を対象にセックスについての情報源を調査したものです。

男女とも「友人や先輩」と「ネット」が多いですね。さらに、男子の場合は「アダルト動画」の影響が大きくなっています。アダルトコンテンツは動画や漫画など様々ですが、どれも性的欲求を満足させるためのフィクションです。そのため、現実で同じように行動してしまうと、人を傷つける可能性がある表現も少なくありません。女性の「付き合っている人」という回答も合わせると、不適切な情報を鵜呑みにして、男性がリードする現状が浮かびます。相手とコミュニケーションを取りながら確認する性的同意が大切です。

「学校(先生、授業や教科書)」との回答から、学校に求められている役割も大きいことがわかります。近年では婦人科医や助産師などによる出張型の性教育の実施が進み、国では令和2年から性犯罪・性暴力対策の一環として「生命(いのち)の安全教育」の取組を推進しています。

平成30年にユネスコなどが提唱した人間関係や性の多様性、ジェンダー平等などを含む包括的性教育への関心も高まっています。



(図1)性交(セックス)についての知識の入手方法(複数回答)
高校生男子2,127名 高校生女子2,149名
出典:日本性教育協会「青少年の性行動」(2018年)

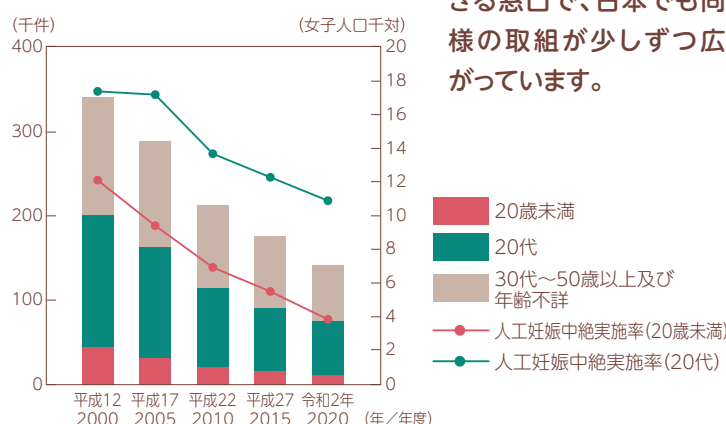
「予期しない妊娠」から見えてくるもの

このあいだ彼氏とお泊りをしたけど、気づいたらずっと生理がきていない...どうしよう?



最新のデータ(図2)によると、人工妊娠中絶件数や実施率は、減少傾向にあるものの、半数以上が10代・20代となっています。日本では、人工妊娠中絶は母体保護法によって条件が定められており、未婚の場合や暴行・脅迫によって妊娠した場合などは、法的には相手の同意が不要です。しかし実際には、予期せぬ妊娠についての相談を受ける窓口に、「医療機関から相手の同意を求められた」「妊娠がわかったら相手の男性が離れていった」という声が寄せられています。予期せぬ妊娠をした女性の多くは、相手の男性や学校、親たちの反応や批判を恐れ、誰にも相談できずに孤立してしまっている状況がうかがえます。

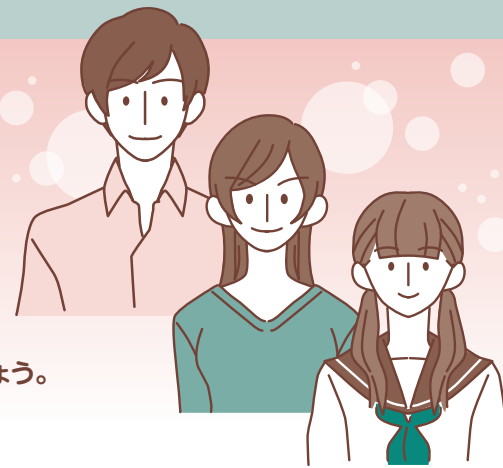
スウェーデンなど欧州では「ユースクリニック」が普及している窓口で、日本でも同様の取組が少しずつ広がっています。



(図2)年齢階級別人工妊娠中絶件数および実施率の推移
出典:内閣府男女共同参画局「男女共同参画白書 令和4年度版」

SRHRはこの4つの組み合わせから成り立っており、生殖可能な時期だけでなく、思春期や更年期、老年期を含む、一生を通して幅広く性と生殖の健康を保障する考えです。

公益財団法人 ジョイスエフ (JOICFP)
<https://www.joicfp.or.jp/>



「性」と聞くと、ドキッとしてしまう人も少なくないかもしれません。でも、誰もが自分のからだところの健康を守るために「性」について考えることは大切です。そこで今回は、妊娠・出産・中絶などを例に「性と生殖の健康と権利」について一緒に考えてみましょう。

SRHRの実現に必要なこと

ひとりで思い悩み、予期しなかった妊娠への不安に直面する女性を減らすためには、性やからだについての正しい知識を得ると同時に、誰もが利用できる医療サービスなどを整えていく必要があります。

国の「第5次男女共同参画基本計画」(令和2年決定)策定の際には、若い世代から処方箋なしの緊急避妊薬の導入について多くのパブリックコメントが寄せられ、その結果、「適切に利用できるよう検討すること」が新たに盛り込まれました。「女性活躍・男女共同参画の方針2022」(令和4年6月決定)には「諸外国の女性は普通に手にしているのに、我が国の女性には手に入らないと指摘されている事柄についても、速やかに改善が図られるべき」と明記されています。

最終的に自分が自分なりの納得できる選択をするためには、正しい知識や情報を得て、周囲と共有する必要があります。多くの人たちが自分の性やからだに関心を持つことで、一人ひとりのSRHRが尊重されるのではないのでしょうか。



埼玉県の取組

「にんしんSOS 埼玉」の設置

一般的な母子保健事業には、母子健康手帳交付前の人に支援が届いていないという課題がありました。そこで、平成30年度、「にんしんSOS 埼玉」を開設し、「生理がこない、怖くて検査薬も試せない」など予期せぬ妊娠等の悩みを抱える方からの電話相談・メール相談に応じています。また、若い世代に対し、妊娠・不妊に係る正しい知識の普及啓発を行うために、一般社団法人埼玉県助産師会に委託し、県内高等学校等において、妊娠・出産・不妊に関する出前講座を年間約30回開催しています。(保健医療部健康長寿課)

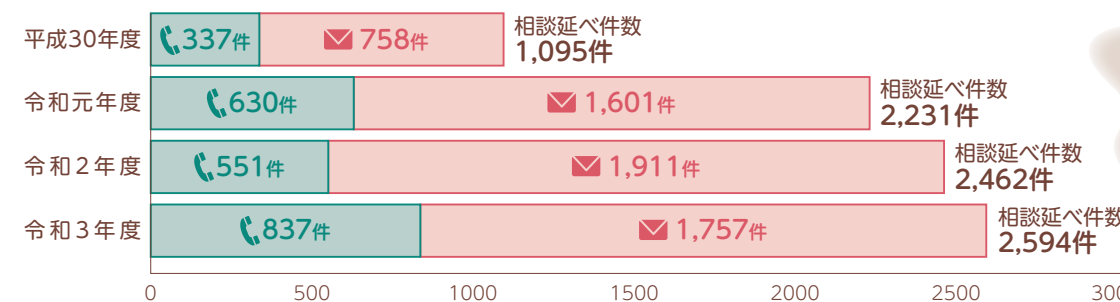
性に関する正しい知識の普及・啓発・教育

発達の段階に応じた適切な「性に関する指導」を推進するために、平成17年度に課題解決検討委員会を立ち上げ、効果的な指導法の研究・実践・普及に取り組んでいます。(教育局保健体育課)

interview

「にんしんSOS埼玉」を運営するNPO法人ピッコラーレさんインタビュー

平成30年度の相談窓口の開設から約4年経ち、相談件数は増えています。



相談者の60~70%は10~20代で、そのうち15%は男性です。県は名刺サイズのカードを県内の高校に配布しているので、それを見て相談してくれるケースもあります。また、ネット検索で窓口にたどりつく相談者も多いです。相談内容は、「妊娠しているかもしれない」といった妊娠不安や「避妊に失敗してしまったがどうしよう」といった避妊に関する相談、「妊娠を伝えたら相手が離れていった。病院に行くお金もない。頼れる人もいない」といった危機的な妊娠の相談まで様々です。前者からは、正しい避妊の知識などを得られる機会が不足していることで、インターネット上の曖昧な情報に振り回されている若者の存在が見えてきます。後者の場合は、性に関して男女の対等な関係が築けていないことが多く、また社会制度の不備で避妊を男性に頼らざるをえない状況の中におかれ、妊娠から逃れられない女性の現実を思い知らされます。状況は異なっていますが、誰にも相談できず一人で孤立している点は共通しています。

特に、「妊娠=おめでた」とされている社会の中で、相談者は自分を責め、葛藤を一人で抱え込んでしまいがちです。すでに家族関係を含め困難を抱えていることも多く、それらが「妊娠」によって露わになるという印象です。私たちは相談者の葛藤している気持ちにじっくりと耳を傾け、彼らの大事にしたいことを尊重しながら妊娠をどうしたいのか(産む・産まない・自分で育てる・人に託すなど)、自己決定のプロセスを伴走していきます。決定した後も葛藤が残ることもあります。一度決めたことを「自己責任」として突き放して女性たちを追い込むのではなく、避妊・中絶・妊娠・出産・子育てについて、その時々あらゆる選択において社会全体で支える仕組みが必要だと感じます。私たちがこの相談業務を始めてから悩んでいる人がこれほどいることを知りました。こうした窓口が求められている現状に多くの方々に関心を寄せてもらえたら嬉しいです。

埼玉県保健医療部健康長寿課
<https://sos.saitama.jp/>



SRHRに基づいた高校生のための性教育パンフレット

『#つながるbook』

埼玉県助産師会の講座や教育委員会主催「性に関する指導」指導者研修会で参考資料として紹介されています。2021年にWeb版も公開され、誰でも無料で閲覧できるので、多くの方々に読んでもらいたい一冊です。



With You さいたまは、県内市町村や高校・大学等からの要請に応じて男女共同参画に関する研修や出前講座を行っており、SRHRの重要性への理解を進めることをテーマの一つとしています。10月には「おとなの性教育」と題した講演会を開催し、世代を超えて性について語り合う機会を設けました。これからもSRHRについて考え、情報を発信していきます。